

工事関係書類様式

番号	書 類 名
様式-1	現場代理人等通知書、経歴書、現場代理人等変更通知書
様式-2	請負代金内訳書
様式-3	工程表、変更工程表
様式-4	建設業退職金共済制度の掛金収納書
様式-5	工事打合せ簿(指示、協議、承諾、提出、報告、通知、立会、確認)
様式-6	段階確認書
様式-7	工事事故報告書
様式-8	工事履行報告書
様式-9	工期延長届
様式-10	支給材料(又は貸与品)請求書
様式-11	支給材料(又は貸与品)受領(又は借用)書
様式-12	支給材料(又は貸与品)返還書
様式-13	現場発生品調書
様式-14	中間前金払認定願、工事出来高内訳書、検査済材料費計算書
様式-15	請負工事既済部分検査請求書
様式-16	指定部分完成通知書
様式-17	完成通知書
様式-18	指定部分引渡書
様式-19	引渡書
様式-20	修補完了届
様式-21	部分使用承諾書
様式-22	請求書(完成代金、指定部分払、部分払、前払金、中間前払金)
様式-23	出来形管理図表
様式-24	品質管理図表

現場代理人等通知書

年 月 日

(支出官等)
(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社等
氏 名

年 月 日 付けをもって請負契約を締結した 工事について国有林野
事業工事請負契約約款第10条第1項に基づき現場代理人等を下記のとおり定めたので別
紙経歴書を添えて通知します。

記

現場代理人氏名

主任技術者又は
監理技術者氏名※

監理技術者補佐

専門技術者氏名

※「資格者証(写し)」を添付する。

経 歴 書

(現場代理人等氏名)

現 住 所

生 年 月 日

*最 終 学 歴

資格及び資格番号

*職 歴

*工 事 経 歴

注1 *は、必要により記載する。

注2 工事経歴には、工事名及びその発注者名を記載すること。

様式－1(3)

現場代理人等変更通知書

年 月 日

(支出官等)
(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

工 事 名

年 月 日付けで通知した上記工事の現場代理人及び技術者を下記のとおり変更したいので、別紙経歴書を添え、国有林野事業工事請負契約約款第10条第1項にもとづき通知します。

記

現場代理人等変更年月日	
変更する現場代理人等区分	

旧現場代理人等氏名	新現場代理人等氏名
変 更 事 由	

※「資格者証(写し)」を添付する。

-
- (注)1. 新現場代理人等の記入内容は様式－1(1)に準ずる。
2. 変更する現場代理人等区分には、下記から該当する区分を記載する
- ・現場代理人
 - ・主任技術者
 - ・監理技術者
 - ・監理技術者補佐
 - ・専門技術者

様式- 3 (1)

工 程 表

年 月 日

(支出官等)
(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

工 事 名
工 期 自

至

工 種	月			月			月			月			月			月		
	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21

- 記載要領
- 1 工種は工種別数量内訳書の工種を記載する。(工種以外でも必要なものは、記載する。)
 - 2 予定工程は黒実線をもって表示する。

様式- 3 (2)

変 更 工 程 表

年 月 日

(支出官等)
(官職氏名)

殿

工 事 名
工 期 自
変更工期 自

至
至

受注者 住 所
会社名等
氏 名

工 種	月			月			月			月			月					
	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21

- 記載要領
- 1 工種は工種別数量内訳書の工種を記載する。(工種以外でも必要なものは、記載する。)
 - 2 当初契約の工程は黒実線をもって表示する。また、変更契約の工程は下段に黒点線もしくは赤実線をもって表示する。

建設業退職金共済制度の掛金収納書

年 月 日

(支出官等)
(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

建設業退職金共済組合証紙購入報告

下記のとおり証紙を購入したので当該掛金収納書を添付して報告します。

工 事 名		工 期	
契約年月日		契約金額	
共済証紙購入金額	¥		
掛金収納書を貼る（契約者から発注者用）			

(注) 添付する掛金収納書は中小企業主に雇われる場合は赤色、大手事業主に雇われる場合は青色

段 階 確 認 書 施 工 予 定 表

年 月 日

森林整備保全事業工事標準仕様書3-1-1-5に基づき、下記のとおり施工段階の予定時期を報告いたします。

工事名 _____ 工事 _____ 受注者 住 所 _____
会社名 _____
現場代理人名等 _____

種 別	細 別	確認予定項目	施工予定時期	記 事

年 月 日

通 知 書

下記種別について、段階確認を行う予定であるので通知します。

監督職員
官職氏名 : _____

確 認 種 別	確 認 細 別	確 認 項 目	確 認 時 期 予 定 日	確 認 実 施 日 等

年 月 日

確 認 書

上記について、段階確認を実施し確認した。

監督職員
官職氏名 : _____

様式-7

工事事故報告書

年 月 日

(監督職員)
(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
現場代理人

工事名				工事場所				
発生日時	年 月 日 (曜日)		時 分	天 候				
災害発生状況・原因	①どのような場所で ②どのような作業をしている時に ③どのような物または環境に ④どのような不安全なまたは危険な状態であって ⑤どのようにして災害が発生したかを詳細に記載する。また略図を添付する。							
被害状況	人的被害・物的被害を記載							
被災者	氏名		生年月日	年 月 日(歳)	性別	男・女	職 種	
	連絡先						経験年数	
	傷病名		傷病部位		休業見込期間・死亡日時		被災場所	
今後の対策								
所見・状況								

工 事 履 行 報 告 書

年 月 日

(監督職員)
(官職氏名)

殿

受注者 住所
会社名等
現場代理人等

工事名			
工期	～		
日付	(月分)		
月 別	予定工程 % () は工程変更後	実施工程 %	備 考
(記事欄)			

工期延長届

年 月 日

(支出官等)
(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

国有林野事業工事請負契約約款第22条による工期の延長を下記のとおり請求します。

記

工 事 名	
契 約 月 日	
工 期	自 至
延 長 工 期	自 至
理 由	

(注)

- 1 必要により下記書類を添付すること。
 - a 工程表（契約当初工程と現在迄の実際の工程及び延長工程の3工程を対照するとともに、詳細に記入）
 - b 天候表、気温表、湿度表、雨量表、積雪表、風速表等工期中と過去の平均とを対照させるなど、延長する根拠を整理すること。
 - c 写真、図面等
- 2 理由は詳細に記入すること。

支給材料(又は貸与品)返還書

年 月 日

物品管理職員等)
(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
現場代理人等

下記のとおり支給材料(又は貸与品)を返還します。

記

工 事 名				契約年月日			
品 目	規 格	単 位	数 量			備 考	
			支給数量	使用数量	残 数 量		
※ 監督職員 証 明 欄	上記について調査したところ、残数量に相違ないことを証明する。 <div style="text-align: center;"> 年 月 日 (官職氏名) </div>						

(注) ※は監督職員が記入する。

様式-14(1)

中間前金払認定願

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名)

殿

受注者 住 所

会社名等

氏 名

年 月 日契約締結した下記の工事について、国有林野事業工事請負契約約款
第 35 条第 5 項に基づき中間前金払認定をされたく申請します。

記

1. 工 事 名

2. 工 事 場 所

3. 工 期 年 月 日から
年 月 日まで

4. 請負代金額 円

※ 様式-14(2)及び(3)を添付すること。

様式-14(2)

別紙

工 事 出 来 高 内 訳 書

工事名											
工 種	請 負 金 額			今回迄の出来高			出来高 比 率	残 高			備 考
	数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額		数 量	単 価	金 額	

- 備考 1 用紙の寸法は、日本産業規格A列4横とする。
2 仮設及び機械器具損料その他出来高については、主工事の出来高比率により算出する。
3 工種については、請負代金内訳書の項目を記入する。

様式-14(3)

検 査 済 材 料 費 計 算 書

工事名 <hr/> 品 名 <hr/>												
検査年月日	設計数量			検査数量			検査合格数量			単価	金額	備 考
	規格	数量	単位	規格	数量	単位	規格	数量	単位			

- 備考 1 用紙の寸法は、日本産業規格A列4横とする。
- 2 本表は品目毎に1枚とする。
- 3 設計数量は、契約上の数量を記入する。検査数量及び検査合格数量は発注者が確認した数量とする。

請負工事既済部分検査請求書

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

年 月 日 付けをもって請負契約を締結した 工事に
ついて、国有林野事業工事請負契約約款第38条第2項に基づき既済部分検査を請求します。

記

工 事 名	
工 期	自
	至

指 定 部 分 完 成 通 知 書

年 月 日

(支出官等)
(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

下記工事の指定部分は、 年 月 日 をもって完成したので国有林
野事業工事請負契約約款第39条第1項に基づき通知します。

記

工事名

工 期 自 至

請負代金額 ￥

指定部分工期 自 至

指定部分に対する請負代金額 ￥

(注) 国庫債務負担行為に基づく契約の場合は請負代金額欄の下段に各年度の出来高予定額を記入すること。

【記載例】

(出来高予定額)	〇〇年度	¥	△△△
	∫	∫	
	□□年度	¥	×××

完 成 通 知 書

年 月 日

(支出官等)
(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

下記工事は 年 月 日をもって完成したので国有林野事業工事
請負契約約款第32条第1項に基づき通知します。

記

- 1 工 事 名
- 2 請負代金額 円
- 3 契約年月日
- 4 工 期 自 至

(注) 本文の年月日は実際に完成した年月日を記載する

指 定 部 分 引 渡 書

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名)

殿

受注者 住 所

会社名等

氏 名

下記工事の指定部分を国有林野事業工事請負契約約款第39条第1項に基づき引渡します。

工 事 名	
指 定 部 分	
全 体 工 期	自 至
指定部分に係る工期	自 至
請 負 代 金 額	¥
指定部分に係る請負代金額	¥
指定部分に係る検査年月日	

引 渡 書

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名)

殿

受注者 住 所

会社名等

氏 名

下記工事を国有林野事業工事請負契約約款第32条第4項に基づき引渡します。

1. 工事名

2 請負代金額 円

3 検査年月日

修 補 完 了 届

年 月 日

(支出官等)
(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

年 月 日の () 検査において、指示されました
修補部分については、下記のとおり完了しましたのでお届けいたします。

記

工 事 名

請負代金額

工 事 場 所

契 約 年 月 日

期 限 年 月 日

完 了 年 月 日

修補、改造箇所及び補修内容

(注) 本文 () 内には検査種類を記入する。

工事の部分使用について

年 月 日

(発注者名又は受注者名)

殿

(受注者名又は発注者名)

標記について、下記のとおり部分使用することを、国有林野事業工事請負契約約款第34条に基づき（協議・承諾）する。

記

1. 使用目的
2. 使用部分
3. 使用期間 自
至
4. 使用者
5. その他

- (注) 1. (協議・承諾) には、いずれかに印をつける。
2. 協議の場合は、受信者を「受注者名」、発信者を「支出官等（官職氏名）」として、発注者が作成する。
3. 承諾の場合は、受信者を『支出官等（官職氏名）』、発信者を『受注者名』として、受注者が作成する。

請 求 書 (完成払金)

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名)

殿

受注者 住 所

会社名等

氏 名

¥ _____

年 月 日契約締結した 工事請負代金の完成払金額
(下記内訳のとおり)を国有林野事業工事請負契約約款第33条第1項の規定に基づ
き上記のとおり請求します。

内 訳

項 目	金 額	摘 要
請 負 代 金 額	円	
前払金受領済額		
中間前払金受領済額		
部分払金受領済額		
今 回 請 求 金 額		

振込先銀行名	
// 口座名義	
// 口座名	
// 口座番号	

(注) 該当のある欄のみ記載し、不必要な事項は抹消して使用すること。

請求書（指定部分支払）

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

¥ _____

年 月 日契約締結した _____ 工事の指定部分に相応する請負代金額（下記内訳のとおり）を国有林野事業工事請負契約約款第39条の規定に基づき上記のとおり請求します。

内 訳

項 目	割 合	金 額	摘 要
請 負 代 金 額	%	円	
指定部分の請求金額相当額及び請負金額に対する割合			
指定部分の出来高割合	100		
既に受領した前払金及び請負金額に対する割合			
同上金額の指定部分割合の金額			
既に受領した部分払金額及び請負金額に対する割合			
同上金額の指定部分相当金額			
今回受領する指定部分金額			
請 負 金 額 支 払 残 額			

振込先銀行名	
〃 口座名義	
〃 口座名	
〃 口座番号	

請求書 (第 回部分払金)

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

¥ _____

年 月 日契約締結した 工事請負代金の第 回部分払金額
(下記内訳のとおり) を国有林野事業工事請負契約約款第38条第5項の規定に基づき上
記のとおり請求します。

内 訳

項 目	割 合	金 額	摘 要
請 負 代 金 額	%	円	
前 払 金 受 領 済 額			
部 分 払 金 受 領 済 額			
出 来 形 部 分 の 割 合 、 金 額			
前 回 ま だ の 出 来 形 部 分 の 金 額			
今 回 の 出 来 形 部 分 の 金 額			
出 来 形 部 分 に 対 す る 9/10 の 金 額			
今 回 出 来 形 部 分 の 部 分 払 金 額			
今 回 請 求 金 額			

振込先銀行名	
〃 口座名義	
〃 口座名	
〃 口座番号	

(注) 1. 今回出来形部分払金額の算出は、下記により行い摘要欄に計算式を
記入するものとする。

$$\text{今回出来形部分の部分払金額} = \text{今回の出来形部分の金額} \times \left(\frac{9}{10} - \frac{\text{前払金受領済額}}{\text{請負代金額}} \right) - \text{部分払金受領済額}$$

2. 該当のある欄のみ記載し、不必要な事項は抹消して使用すること。

請求書（第 回部分払金・国庫債務負担行為用）

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

¥ _____

年 月 日契約締結した 工事の 年度出来形部分に係る
請負代金の第 回部分払金額（下記内訳のとおり）を国有林野事業工事請負契約約
款第4条第1項の規定に基づき上記のとおり請求します。

内 訳

項 目	割合	金 額	摘要
請 負 代 金 額	%	円	
年度出来形予 定金額			
年度支 払 年 割 額			
前 払 金 受 領 済 額			
部 分 払 金 受 領 済 額			
年度出来形予定部分に対する今 回の出来形部分の割合、金額			
前回までの出来形部分の金額			
今 回 の 出 来 形 部 分 の 金 額			
出来形部分に対する 9/10 の金額			
今回出 来 形 部 分 の 部 分 払 金 額			
今 回 請 求 金 額			

振込先銀行名	
// 口座名義	
// 口座名	
// 口座番号	

(注) 1. 今回出来形部分払金額の算出は、下記により行い摘要欄に計算式を記入するものとする。

$$(a) \text{ 部分払金の額} \leq \text{請負代金相当額} \times 9/10 - (\text{前会計年度までの支払金額} + \text{当該会計年度の部分払金額}) - [\text{請負代金相当額} - (\text{前年度までの出来高予定額} + \text{出来高超過額})] \times \frac{\text{当該会計年度前払金額}}{\text{当該会計年度の出来高予定額}}$$

$$(b) \text{ 部分払金の額} \leq \text{請負代金相当額} \times 9/10 - \text{前会計年度までの支払金額} - (\text{請負代金相当額} - \text{前年度までの出来高予定額}) \times \frac{(\text{当該会計年度前払金額} + \text{当該会計年度の間前払金額})}{\text{当該会計年度の出来高予定額}}$$

$$(c) \text{ 部分払金の額} \leq (\text{前会計年度末における請負代金相当額} - \text{前会計年度までの出来高予定額}) \times 9/10$$

* (b) は中間前払金を選択した場合、(c) は出来高超過額に対する部分払

2. 該当のある欄のみ記載し、不必要な事項は抹消して使用すること。

請 求 書 (前払金)

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

¥ _____

年 月 日契約締結した 工事請負代金の
の前払金額（下記内訳のとおり）を国有林野事業工事請負契約約款第35条第1項の
規定に基づき上記のとおり請求します。

内 訳

項 目	金 額
請 負 代 金 額	円
請負代金額に対する /10の金額	
今 回 請 求 金 額	

振込先銀行名	
// 口座名義	
// 口座名	
// 口座番号	

(注) 1. 保証証書を添付すること。

請求書（前払金・国庫債務負担行為用）

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

¥ _____

年 月 日契約締結した 工事の 年度出来形予定部分に係る請負代金の前払金額（下記内訳のとおり）を国有林野事業工事請負契約約款第4条第1項の規定に基づき上記のとおり請求します。

内 訳

項 目	金 額
請 負 代 金 額	円
年度出来形予定金額	
年度支払年割額	
年度出来形予定金額 に対する /10 の金額	
今 回 請 求 金 額	

振込先銀行名	
// 口座名義	
// 口座名	
// 口座番号	

(注) 1. 保証証書を添付すること。

請 求 書 (中間前払金)

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名)

殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

¥ _____

年 月 日契約締結した _____ 工事請負代金の中間前払金額（下記内訳のとおり）を国有林野事業工事請負契約約款第35条第4項の規定に基づき上記のとおり請求します。

内 訳

項 目	金 額
請 負 代 金 額	円
前 払 金 受 領 済 額	
請負代金額に対する2/10の金額	
今 回 請 求 金 額	

振込先銀行名	
// 口座名義	
// 口座名	
// 口座番号	

(注) 1. 保証証書を添付すること。

請求書（中間前払金・国庫債務負担行為用）

年 月 日

(支出官等)

(官職氏名) 殿

受注者 住 所
会社名等
氏 名

¥ _____

年 月 日契約締結した 工事の 年度出来形予定部分に係る請負代金の中間前払金額（下記内訳のとおり）を国有林野事業工事請負契約約款第41条第1項の規定に基づき上記のとおり請求します。

内 訳

項 目	金 額
請 負 代 金 額	円
年度出来形予定金額	
年度支払年割額	
年度出来形予定金額に対する2/10の金額	
今 回 請 求 金 額	

振込先銀行名	
// 口座名義	
// 口座名	
// 口座番号	

(注) 1. 保証証書を添付すること。

様式-23(1)

出来形管理図表

工種 _____

種別 _____

測定者 _____

測 点											略 図		
設計値との差 0												略 図	
測定項目				測定項目				測定項目					
規格値				規格値				規格値					
測点又は区別	設計値	実測値	差	測点又は区別	設計値	実測値	差	測点又は区別	設計値	実測値	差		
平均値													
最大値													
最小値													
最多値													
データ数													
標準偏差													

出来形合否判定総括表

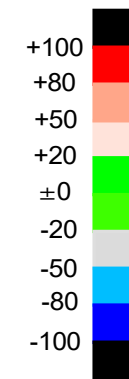
工 種 _____

測点 _____

種 別 _____

合否判定結果 _____

測定項目		規格値	判定	測点	



品質管理図表

工種 _____

種別 _____

測定者 _____

測点												略 図			
設計値との差															
測定項目				測定項目				測定項目							
規格値				規格値				規格値							
測点又は区別	設計値	実測値	差	測点又は区別	設計値	実測値	差	測点又は区別	設計値	実測値	差				
平均値															
最大値															
最小値															
最多値															
データ数															
標準偏差															
(注) 測定値は、測定機等の精度に注意して測定すること。															

工事関係書類の参考様式一覧

番号	書類名
参考様式-25	着工通知書
参考様式-26	損害の発生通知書
参考様式-27	施工計画書
参考様式-28	現場組織表
参考様式-29	主要機械
参考様式-30	仮設備計画図
参考様式-31	緊急時の連絡体制
参考様式-32	施工体制台帳
参考様式-33	施工体系図
参考様式-34	コンクリートポンプ施工計画書
参考様式-35	施工管理担当者通知書
参考様式-36	工事日報
参考様式-37	コンクリート打設（計画表・進行図）
参考様式-38	出来形図
参考様式-39	出来形集計表
参考様式-40	コンクリートのスランプ・空気量試験表
参考様式-41	コンクリートの圧縮強度試験表
参考様式-42	X-R（スランプ・空気量）管理図
参考様式-43	X-Rs-Rm（圧縮強度）管理図
参考様式-44	ゆとりの検討表
参考様式-45	粗骨材のふるい分け試験表
参考様式-46	細骨材のふるい分け試験表
参考様式-47	骨材の微粒分量試験
参考様式-48	細骨材の表面水率試験表（容積法）
参考様式-49	細骨材の表面水率試験表（重量法）
参考様式-50	現場配合修正表
参考様式-51	コンクリート配合試し練り修正表

着 工 通 知 書

工 事 名

契約年月日

年 月 日

工 期

年 月 日から

年 月 日まで

日間

着工年月日

年 月 日

上記のとおり着工したから通知します。

年 月 日

殿

受注者

損害の発生通知書

工 事 名

工 事 場 所

請負代金額 ¥

契約年月日

年 月 日

工 期

年 月 日から

年 月 日まで

日間

上記工事について、

のため次のとおり

損害を生じたので、国有林野事業工事請負契約約款第30条第1項により通知します。

年 月 日

殿

受注者

参考様式-26 (2)

1. 損害額内訳					
種 別 (材料名)	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2. 火災保険その他損害を補填するものの明細					
名 称		補填率		補填額	
		%			
3. 被害写真 別紙					
4. その他参考事項					

工 事 施 工 計 画 書

年 月 日に契約した上記工事の施工計画書について、森林整備保全事業
工事標準仕様書第 条に基づき下記のとおり提出します。

記

1	工事概要	別紙のとおり
2	計画工程表	別紙のとおり
3	現場組織表	別紙のとおり
4	主要機械	別紙のとおり
5	主要資材	別紙のとおり
6	施工方法（工事用地等を含む）	別紙のとおり
7	施工管理計画（施工管理担当者の通知等を含む。）	別紙のとおり
8	緊急時の体制及び対応	別紙のとおり
9	交通管理	別紙のとおり
10	安全管理	別紙のとおり
11	仮設備計画	別紙のとおり
12	環境対策	別紙のとおり
13	再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法	別紙のとおり
14	その他（現場作業環境の整備、木材利用等）	別紙のとおり

年 月 日

監督職員

殿

受 注 者

現場代理人名

現場組織表

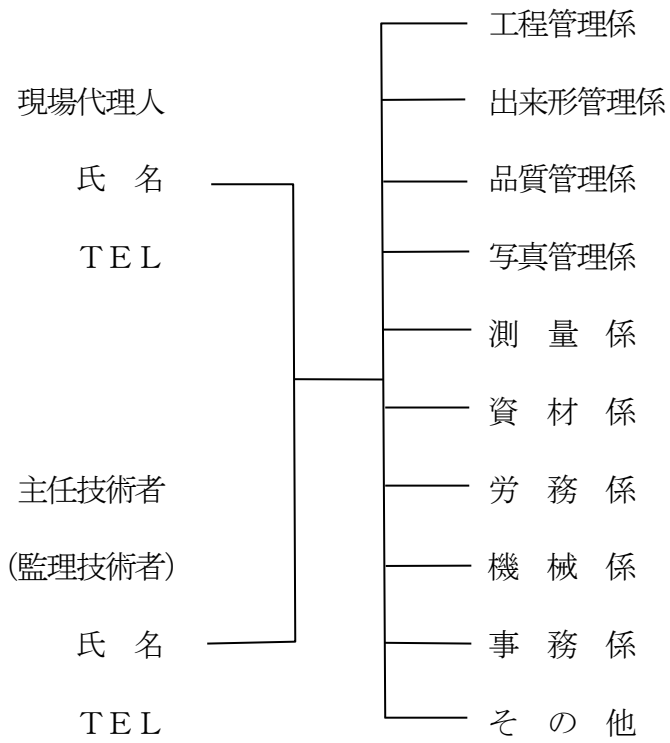
現場事務所

住所

TEL

担当業務

氏名



(注) 工事の規模、内容により必要な担当者を定め、施工に係わる責任の範囲を明らかにしておく。

主 要 機 械

工事名				受注者													
機械名	メーカー、規格、形式等	台数	使用工種	作 業 予 定 期 間												備考	
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		

(注) 主要機械については、別途写真を整理しておくこと。

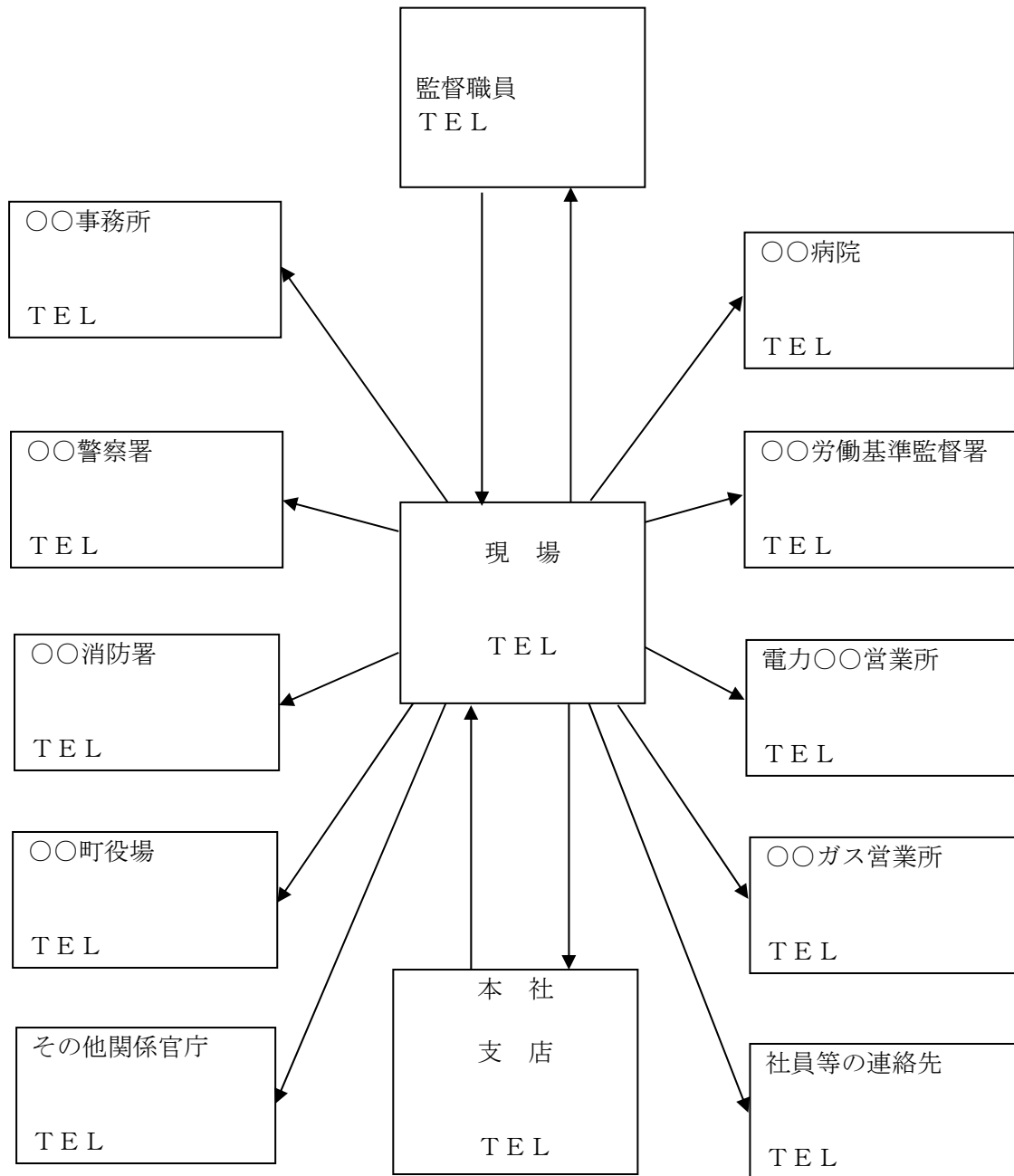
仮 設 備 計 画 図

年 月 日

工事名									受注者					
備 考														

(注) 指定仮設で、構造及び形状、寸法等が明示されている場合は省略することができる。

緊急時の連絡体制



(注) 大雨、洪水、強風等の異常気象で災害が発生した場合又はその恐れがある場合、その他緊急時の場合は、現場責任者は、情報連絡、対策等を上記の連絡系統で速やかに措置できるようにする。

施 工 体 制 台 帳

年 月 日

会社名
事業所名

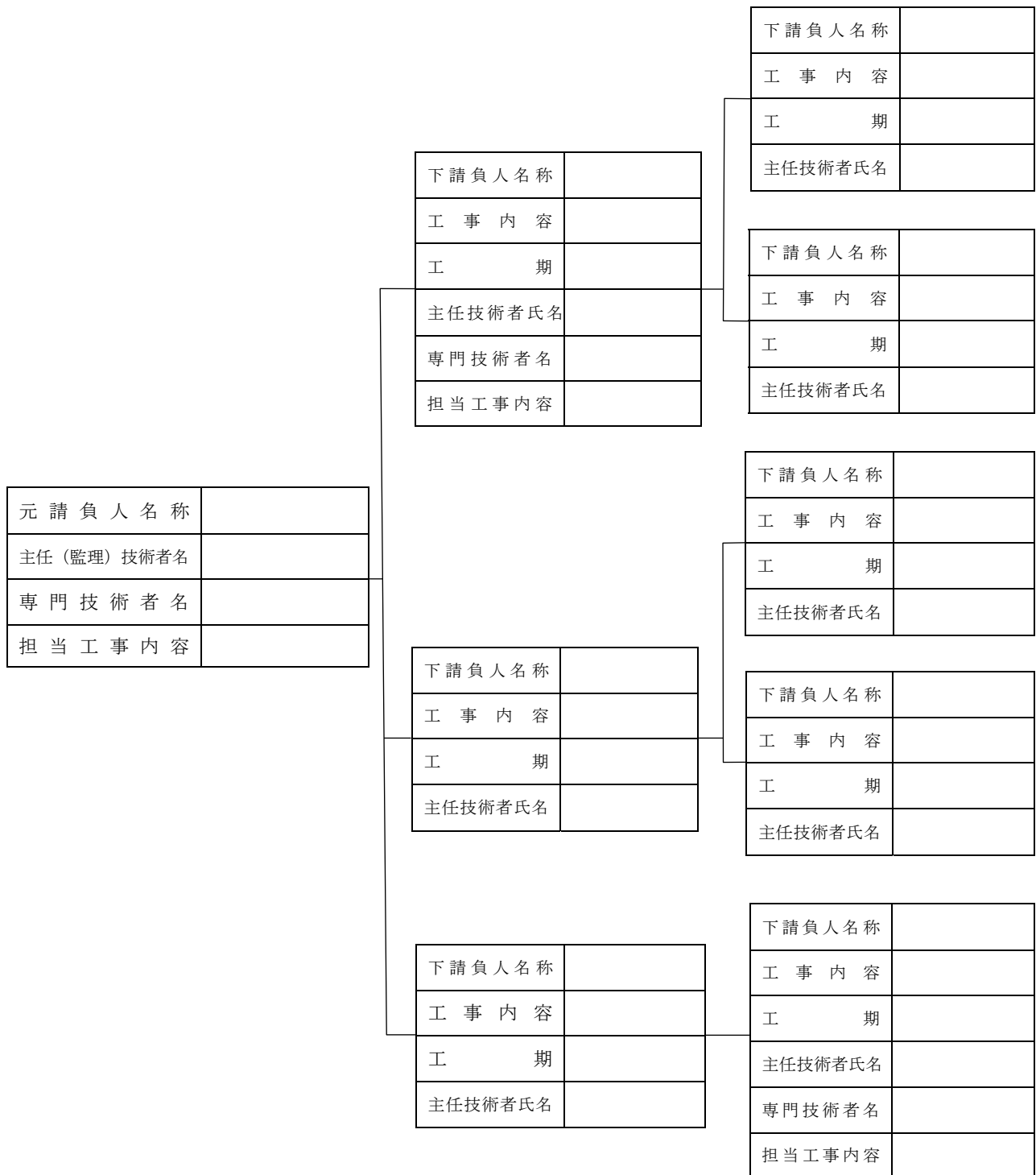
建設業の許可	許 可 業 種	許 可 番 号		許可（更新）年月日		
	工事業	大臣 特定 第 号	知事 一般	年 月 日		
	工事業	大臣 特定 第 号	知事 一般	年 月 日		
工事名称及び工事内容						
発注者及び住所	〒					
工 期	自 年 月 日 至 年 月 日	契 約 日		年 月 日		
契 約 営 業 所	区 分	名 称		住 所		
	元請契約					
	下請契約					
健康保険等の加入状況	保険加入の有無 ¹	健康保険	厚生年金保険		雇用保険	
		加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外		
	事業所 整理記号 等	区分	営業所の名称 ²	健康保険 ³	厚生年金保険 ⁴	雇用保険 ⁵
		元請契約				
下請契約						
発注者の監督職員名			権限・意見 申出方法			
現場代理人			権限・意見 申出方法			
監理（主任） 技術者名	専任 非専任			資 格 内 容		
専 門 技 術 者 名			専 門 技 術 者 名			
資格内容			資 格 内 容			
	担 当 工事内容			担 当 工事内容		
一号特定技能 外国人の状況 (有無)	有 無	外国人建設就 労者の従事の 状況 (有無)	有 無	外国人技能実 習生の従事状 況 (有無)	有 無	

下請負人に関する事項

会社名				代表者名				
住所 電話番号	〒 (〇 - -)							
工事名称 及び 工事内容								
工期	自	年	月	日	契 約 日	年	月	日
建設業の 許 可	施工に必要な許可業種		許 可 番 号		許可 (更新) 年月日			
	工事業		大臣 特定 第 号		年 月 日			
	工事業		知事 一般					
健康保険等 の加入状況	保険加入 の有無 ¹	健康保険		厚生年金保険		雇用保険		
		加入 未加入 適用除外		加入 未加入 適用除外		加入 未加入 適用除外		
	事業所 整理記号 等	区分	営業所の名称 ²	健康保険 ³	厚生年金保険 ⁴	雇用保険 ⁵		
		請負契約						
		再下請契約						
現場代理人				安全衛生 推進者名				
権限・意見 申出方法				雇用管理 責任者名				
主任技術者	専任 非専任			専 門 技術者名				
資格内容				資格内容				
安全衛生 責任者名				担当工事 内 容				
一号特定技能 外国人の状況 (有無)	有 無	外国人建設就 労者の従事の 状況 (有無)		有 無	外国人技能実 習生の従事状 況 (有無)	有 無		

施 工 体 系 図

工事名称		工 期	自	年	月	日
			至	年	月	日
発注者		契約日		年	月	日



コンクリートポンプ施工計画書

工事名		工作物名				
圧送業者	名称			配車予定ポンプ		
	代表者名			メーカー		
	所在地			形式		
	ポンプ保有台数			最大圧送距離	水平 m	
	所属協会名				垂直 m	
配車予定ポンプの性能仕様			配管			
最大輸送量	m ³ /h	区分	径	実延長	水平換算距離	
標準輸送量	m ³ /h	水平部分		m	m	
配送量コントロール	可・不可	垂直部分		m	m	
配管途中の絞り管	必要・不要	曲り管	R=	m 箇所	m	
輸送可能スランプ	cm～ cm	〃	R=	m 箇所	m	
異物混入防止装置	あり・なし	絞り管		箇所	m	
コンクリートかく拌装置	あり・なし	フレキシブルホース		m	m	
逆転装置	あり・なし					
ポンプ・吐出口連絡装置	あり・なし	合計			m	
レディコンクリートミキスト	工事名			コンクリートの種類	普通	
	所在地			粗骨材最大寸法	mm	
	コンクリート輸送時間	最大	分	呼び強度	N/mm ²	
		標準	分	スランプ	cm	
	生コン車配車計画		m ³ 車	台	空気量	%
			m ³ 車	台	コンクリート温度の範囲	℃～ ℃
		m ³ 車	台			
労務計画	生コン車誘導員		人	バイブレーター	人	
	ポンプオペレーター		人		人	
	筒先作業員					
付表	1. コンクリートポンプ配管図					

上記のとおり作成したので提出します。

年 月 日

監督職員

殿

施工管理担当者

施工管理担当者通知

工 事 名

年 月 日に契約した上記工事について、 工事施工管理基準に基づき施工管理担当者を下記のとおり定めたので通知します。

記

1. 管理担当者 現 住 所

氏 名

生 年 月 日

2. 学歴・資格 最終学校名

卒 業 年 次

資 格

免 許

3. 工事経歴

期 間	工 事 名	発 注 者

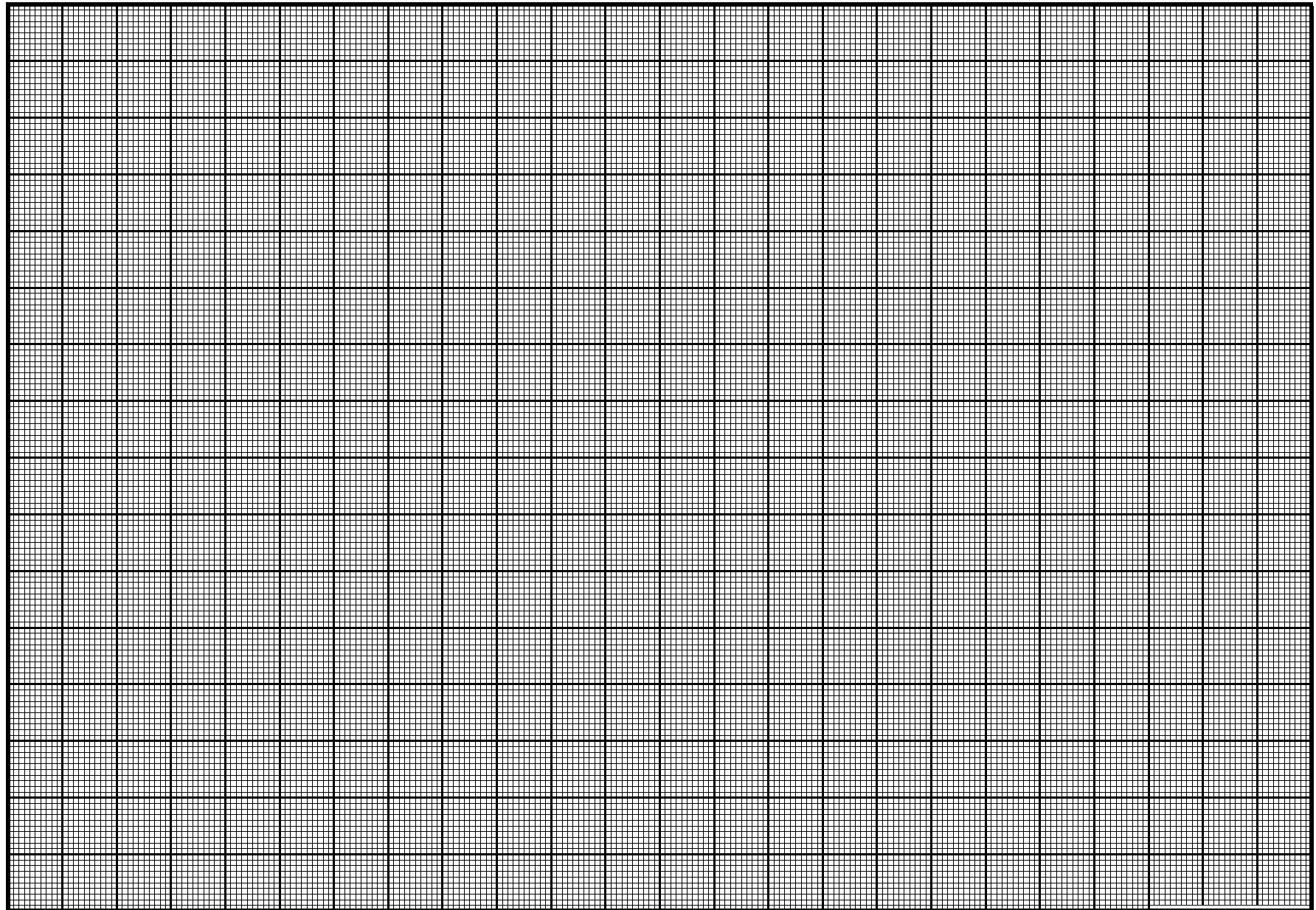
年 月 日

監督職員

殿

受注者

出来形図



コンクリートのスランプ・空気量試験表

規格限界	最大	スランプ	空気量
	最小	cm	%

工事名	主任技術者										粗骨材の最大寸法										mm		セメントの種類		混和剤		水セメント比		%											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
番号																																								
測定月日																																								
気温 (°C)																																								
ブロック番号																																								
ス ラ ン プ (cm)	午前 (x ₁)																																							
	午前 (x ₂)																																							
	$\frac{(x_1)+(x_2)}{2} = X_1$																																							
	午後 (x ₃)																																							
	午後 (x ₄)																																							
	$\frac{(x_3)+(x_4)}{2} = X_2$																																							
	$\frac{X_1+X_2}{2} = \bar{X}$																																							
	$ X_1 - X_2 = R$																																							
管理限界の計算	$\bar{X} = \div 5 =$	$\bar{X} = \div 10 =$																																						
	$\bar{R} = \div 5 =$	$\bar{R} = \div 10 =$																																						
	$\bar{X} \pm 1.88 \cdot \bar{R} = \pm$	$\bar{X} \pm 1.88 \cdot \bar{R} = \pm$																																						
	$3.27 \cdot \bar{R} =$	$3.27 \cdot \bar{R} =$																																						
記事																																								
空 気 量 (%)	午前 (x ₁)																																							
	午前 (x ₂)																																							
	$\frac{(x_1)+(x_2)}{2} = X_1$																																							
	午後 (x ₃)																																							
	午後 (x ₄)																																							
	$\frac{(x_3)+(x_4)}{2} = X_2$																																							
	$\frac{X_1+X_2}{2} = \bar{X}$																																							
	$ X_1 - X_2 = R$																																							
管理限界の計算	$\bar{X} = \div 5 =$	$\bar{X} = \div 10 =$																																						
	$\bar{R} = \div 5 =$	$\bar{R} = \div 10 =$																																						
	$\bar{X} \pm 1.88 \cdot \bar{R} = \pm$	$\bar{X} \pm 1.88 \cdot \bar{R} = \pm$																																						
	$3.27 \cdot \bar{R} =$	$3.27 \cdot \bar{R} =$																																						
記事																																								

コンクリートの圧縮強度試験表

規格値 N/mm^2

工 事 名		主任技術者							粗骨材の最大寸法							mm						セメントの種類						混和剤						水セメント比						%	
番 号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
製 造 月 日		/ /																																							
試 験 月 日		/ /																																							
材 令 (日)																																									
養生温度 (°C)																																									
質 量 (kg)	a																																								
	b																																								
	c																																								
破 荷 壊 重 (N)	a																																								
	b																																								
	c																																								
圧 縮 強 度 (N/mm ²)	a																																								
	b																																								
	c																																								
強度平均	$\bar{X} = \frac{a+b+c}{3}$																																								
範 囲	$R_s = \bar{X}_1 - \bar{X}_2 $																																								
	$R_m = \text{供試体差}$																																								
管 理 界 限 の 計 算	$\bar{X} = \div 5 =$	$\bar{X} = \div 10 =$																																							
	$\bar{R}_s = \div 4 =$	$\bar{R}_s = \div 9 =$																																							
	$\bar{R}_m = \div 5 =$	$\bar{R}_m = \div 10 =$																																							
	$\bar{X} \pm 2.66 \cdot \bar{R}_s = \pm$	$\bar{X} \pm 2.66 \cdot \bar{R}_s = \pm$																																							
	$3.27 \cdot \bar{R}_s =$	$3.27 \cdot \bar{R}_s =$																																							
	$2.58 \cdot \bar{R}_m =$	$2.58 \cdot \bar{R}_m =$																																							
記 事																																									

\bar{X} -R (スランプ・空気量) 管理図

工事名	品質特性	主任 技術者	作成者
-----	------	-----------	-----

品質 特性	月 日																										
ス ラ ン プ	\bar{X}	(cm)																									
		R																									
	空 気 量	\bar{X}	(%)																								
			R																								
記 事																											

$\bar{X} - R_s - R_m$ (圧縮強度) 管理図

工事名		品質特性	圧縮強度	主任 技術者		作成者	
-----	--	------	------	-----------	--	-----	--

月 日																									
\bar{X}	N/mm ²																								
R_s	N/mm ²																								
	0																								
R_m	N/mm ²																								
	0																								
記 事																									
予備データ因子																									

ゆとりの検討表 { スランプ 空気量 圧縮強度 }

年 月 日

工 事 名	主任技術者	作成者
-------	-------	-----

区 分	規 格				測 定 値		ゆとりの 適 否	規格に 対する 合 否	変動係数 CV
	片 側 規格値 S	下 限 規格値 SL	上 限 規格値 SU	規格を 割る確 率 P	規 準 正 規 分 布 の 上 側 確 率 P の 点 K P	$\bar{S} - \bar{X}$ $\hat{\sigma}$			
スランプ		cm	cm						%
空気量		%	%						
圧縮強度	N/mm ²			0.05	1.64				

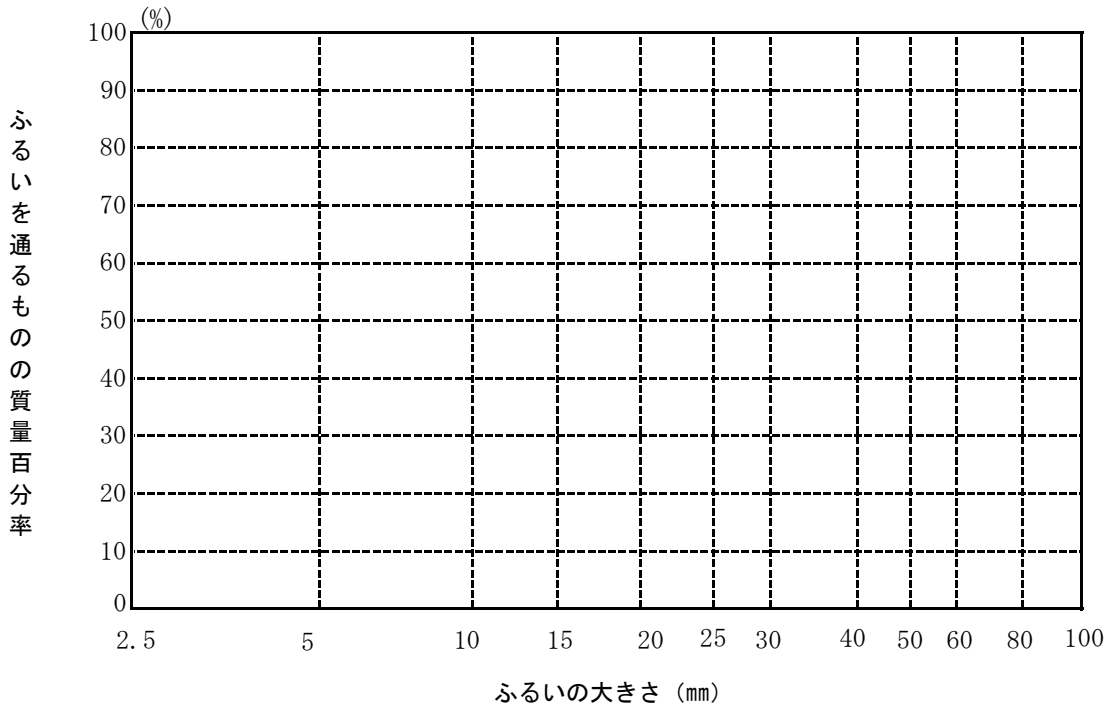
項 目	ス ラ ン プ	空 気 量	圧 縮 強 度
母標準偏差の 推定値 $\hat{\sigma}$	$\frac{\bar{R}}{d_2} = \frac{\quad}{1.128}$ =	$\frac{\bar{R}}{d_2} = \frac{\quad}{1.128}$ =	$\frac{\bar{R}}{d_2} = \frac{\quad}{1.693}$ =
コンクリート 標準示方書による 圧縮強度の許容 限界の検査			$\frac{\bar{S} - \bar{X}}{\hat{\sigma}}$ = > 1.64
規格値との照合	$\frac{SU - SL}{\hat{\sigma}}$ = > 6~8	$\frac{SU - SL}{\hat{\sigma}}$ = > 6~8	
変動係数 CV	$\frac{\hat{\sigma}}{\bar{X}} \times 100$ _____	$\frac{\hat{\sigma}}{\bar{X}} \times 100$ _____	$\frac{\hat{\sigma}}{\bar{X}} \times 100$ _____

粗骨材のふるい分け試験表 (JIS A 1102)

工事名					主任技術者				
試験日					産地				
ふるい分け試験	ふるいの大きさ (mm)	第 1 回				第 2 回			
		ふるいごとの残留量		総残留量 (%)	通過量 (%)	ふるいごとの残留量		総残留量 (%)	通過量 (%)
	(g)	累 計	(g)			累 計			
	60								
	50								
	40								
	30								
	25								
	20								
	15								
	10								
	5								
	受皿								
	計								
試料	最大寸法 (mm)	質量 (g)	最大寸法 (mm)	質量 (g)	最大寸法 (mm)	質量 (g)	最大寸法 (mm)	質量 (g)	

粒度曲線図

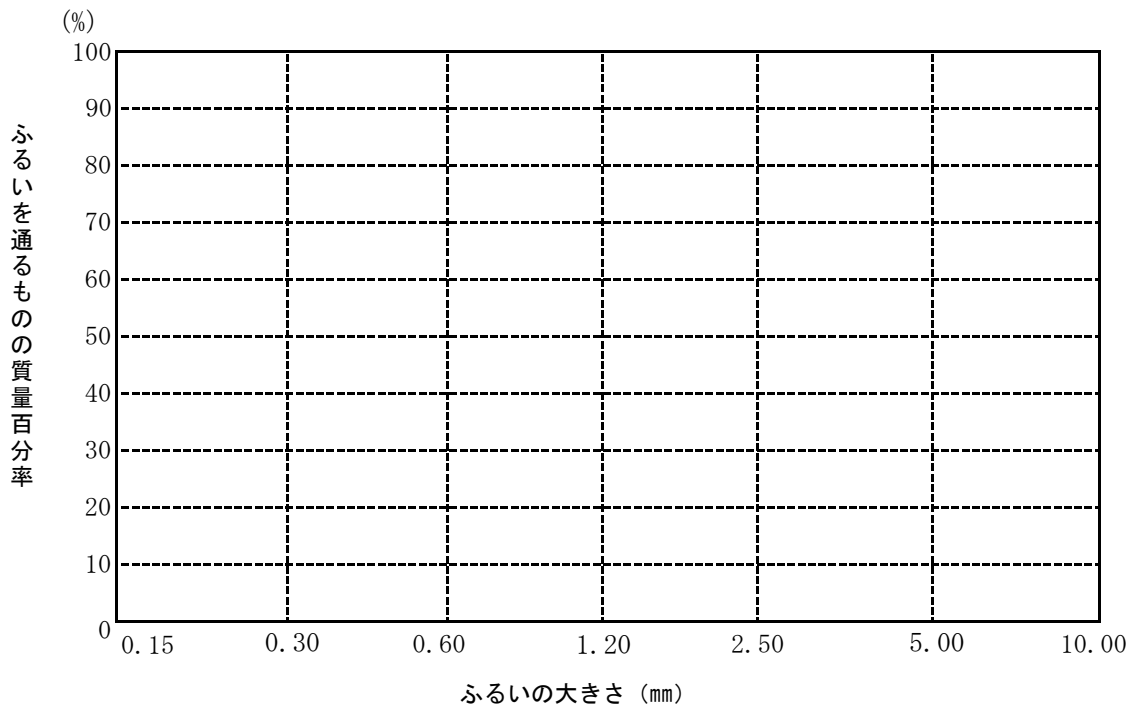
最大寸法 mm



粗骨材のふるい分け試験表 (JIS A 1102)

工事名					主任技術者				
試験日	年	月	日	産地	調査者				
ふるい分け試験	ふるいの大きさ(mm)	第 1 回				第 2 回			
		ふるいごとの残留量		総残留量 (%)	通過量 (%)	ふるいごとの残留量		総残留量 (%)	通過量 (%)
		(g)	累 計			(g)	累 計		
	5.0								
	2.5								
	1.2								
	0.6								
	0.3								
	0.15								
	受皿								
計									
粗粒率	_____ =				_____ =				
平均	_____ +				_____ =				
	2								

粒度曲線図



骨材の微粒分量試験 (JIS A 1103)

試験名	骨材の微粒分量			所属 産地		試験者	
測定 年月日	室温 (°C)	湿度 (%)	洗う前の乾燥 質量 (g)	洗った後の乾 燥質量 (g)	差引損失質量 (g)	0.075mmふるい を通過する量の 百分率 (%)	摘 要
(注) 0.075mm ふるいを通過する量の百分率 = $\frac{\text{洗う前の乾燥質量} - \text{洗った後の乾燥質量}}{\text{洗う前の乾燥質量}} \times 100$							
摘 要	精度：2回行ない測定値と平均値との差 細骨材0.5% 粗骨材0.3%以下						

試験名	同上 (メスシリンダーによる場合)			所 属		試験者	
測定 年月日	室温 (°C)	湿度 (%)	試料の量 (cc)	泥の量 (cc)	泥の割合 (%)		
(注) 泥の割合 = $\frac{\text{泥の量}}{\text{試料の量}} \times 100$							
摘要	精度：2回行ない測定値と平均値との差 細骨材0.5% 粗骨材0.3%以下						

細骨材の表面水率試験表 (JIS A 1111、容積法)

試験名	細骨材の表面水率試験		所属		試験者	
月日時	試料の重量 W_s (g)	フラスコのマークまで 水を入れた量 V_1 (cc)	フラスコに水と砂 を入れた量 V_2 (cc)	$V_s = V_2 - V_1$	$V_d = W_s / \text{比重}$	表面水率P (%) = $((V_s - V_d) / (W_s - V_s)) * 100$

精度：2回行い平均値との差 0.3%以下

細骨材の表面水率試験表 (JIS A 1111、重量法)

試験名	細骨材の表面水率試験			所属				試験者	
月日時	試料 W_s (g)	容器と水の質量 W_c (g)	容器と水と試料の質量 W (g)	$V_s = W_s + W_c - W$ (g)	$V_d = W_s / \text{比重}$	$V_s - V_d = a$	$\frac{W_s - V_s}{b}$	表面水率P (%) = (a/b) × 100	

精度：2回行い平均値との差 0.3%以下

現場配合修正表				
工 事 名		産 地		
実 施 年月日		主任技術者		
1. 示方配合 水セメント比； % 細骨材率； %				
単位セメント C (kg)	単 位 水 量 W (kg)	単位細骨材量 S (kg)	単位粗骨材量 G (kg)	混 和 剤 量 (kg)
2. 現場における骨材の修正				
骨 材	5mmふるいを通過する量 (%)	5mmふるいに留まる量 (%)	備 考	
細 骨 材	a ;	b ;	ふるい分け 試験による	
粗 骨 材	c ;	d ;		
修正骨材量の算出				
<ul style="list-style-type: none"> ・採取すべき細骨材量を x、粗骨材量を y として、連立方程式により算出する。 ・全骨材量 ; $x + y = S + G$ (S; 単位細骨材量、G 単位粗骨材量) ・砂について ; $(a/100) x + (c/100) y = S$ ・連立方程式を解いて、表乾状態における修正骨材量 x、y を求める。 				
修正細骨材量 x ; kg				
修正粗骨材量 y ; kg				
3. 骨材の表面水の補正				
骨 材	表乾状態の 修正単位量	表面水率	表面水の算出	現場修正単位量
細骨材	x ; kg	P_S ; %	$P_{SW} = x (P_S/100)$ = (/100) = (kg)	$X = x + P_{SW}$ = + =
粗骨材	y ; kg	P_G ; %	$P_{GW} = y (P_G/100)$ = (/100) = (kg)	$Y = y + P_{GW}$ = + =
水	w ; kg	—	$W_P = (P_{SW} + P_{GW})$ = (+) = (kg)	$WW = W - W_P$ = - =
4. 現場配合				
単位セメント C (kg)	単 位 水 量 W(WW) (kg)	単位細骨材量 S(X) (kg)	単位粗骨材量 G(Y) (kg)	混 和 剤 量 (kg)

コンクリート配合試し練り修正表

年 月 日

工事名					骨材の 産 地					
実 施 年月日	年 月 日				主 任 技術者				調 査 者	
セメントの種類	W	C	S	G	混和剤	スランプ	空気量	W/C	そ の 他	
(標準配合) 示方配合									混和剤名	
混合修正	%									
	修正量									
	修正後の 単 位 量									
バ ッ チ 量										
表面水修正	%									
	修正量									
試 し 練 り の 経 過	標準配合									
	1									
	2									
	3									
	4									
	最も良い 配 合									
表面水修正	%									
	修正量									
	修正後の バ ッ チ 量									
骨材配合修正	%									
	修正量									
	修正後の バ ッ チ 量									
単 位 量									s/a=	
決定単位量										
備 考										

着 工 通 知 書

工 事 名

契約年月日

年 月 日

工 期

年 月 日から

年 月 日まで

日間

着工年月日

年 月 日

上記のとおり着工したから通知します。

年 月 日

殿

受注者

損害の発生通知書

工 事 名

工 事 場 所

請負代金額 ¥

契約年月日

年 月 日

工 期

年 月 日から

年 月 日まで

日間

上記工事について、

のため次のとおり

損害を生じたので、国有林野事業工事請負契約約款第30条第1項により通知します。

年 月 日

殿

受注者

参考様式-26 (2)

1. 損害額内訳					
種 別 (材料名)	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
2. 火災保険その他損害を補填するものの明細					
名 称	補填率		補填額	備 考	
	%				
3. 被害写真 別紙					
4. その他参考事項					

工 事 施 工 計 画 書

年 月 日に契約した上記工事の施工計画書について、森林整備保全事業
工事標準仕様書第 条に基づき下記のとおり提出します。

記

1	工事概要	別紙のとおり
2	計画工程表	別紙のとおり
3	現場組織表	別紙のとおり
4	主要機械	別紙のとおり
5	主要資材	別紙のとおり
6	施工方法（工事用地等を含む）	別紙のとおり
7	施工管理計画（施工管理担当者の通知等を含む。）	別紙のとおり
8	緊急時の体制及び対応	別紙のとおり
9	交通管理	別紙のとおり
10	安全管理	別紙のとおり
11	仮設備計画	別紙のとおり
12	環境対策	別紙のとおり
13	再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法	別紙のとおり
14	その他（現場作業環境の整備、木材利用等）	別紙のとおり

年 月 日

監督職員

殿

受 注 者

現場代理人名

現場組織表

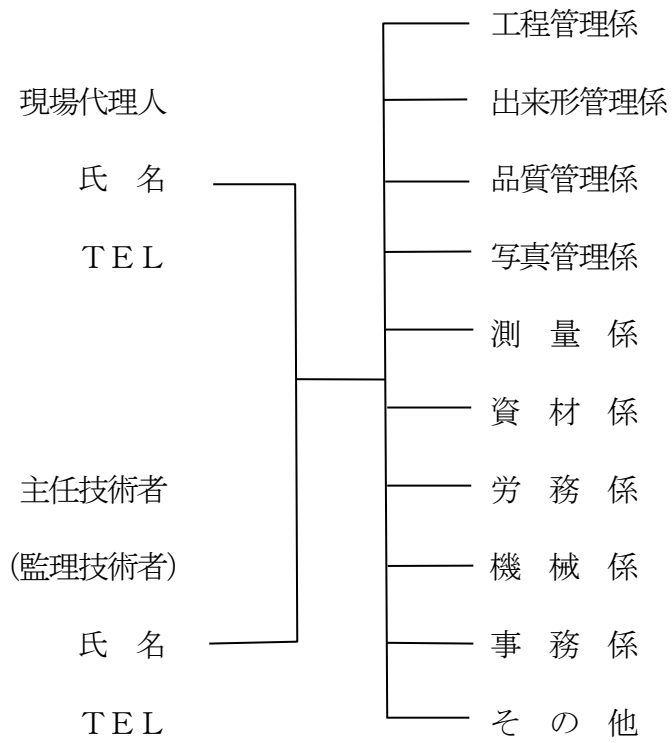
現場事務所

住所

TEL

担当業務

氏名



(注) 工事の規模、内容により必要な担当者を定め、施工に係わる責任の範囲を明らかにしておく。

主 要 機 械

工事名				受注者													
機械名	メーカー、規格、形式等	台数	使用工種	作 業 予 定 期 間												備考	
				4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		

(注) 主要機械については、別途写真を整理しておくこと。

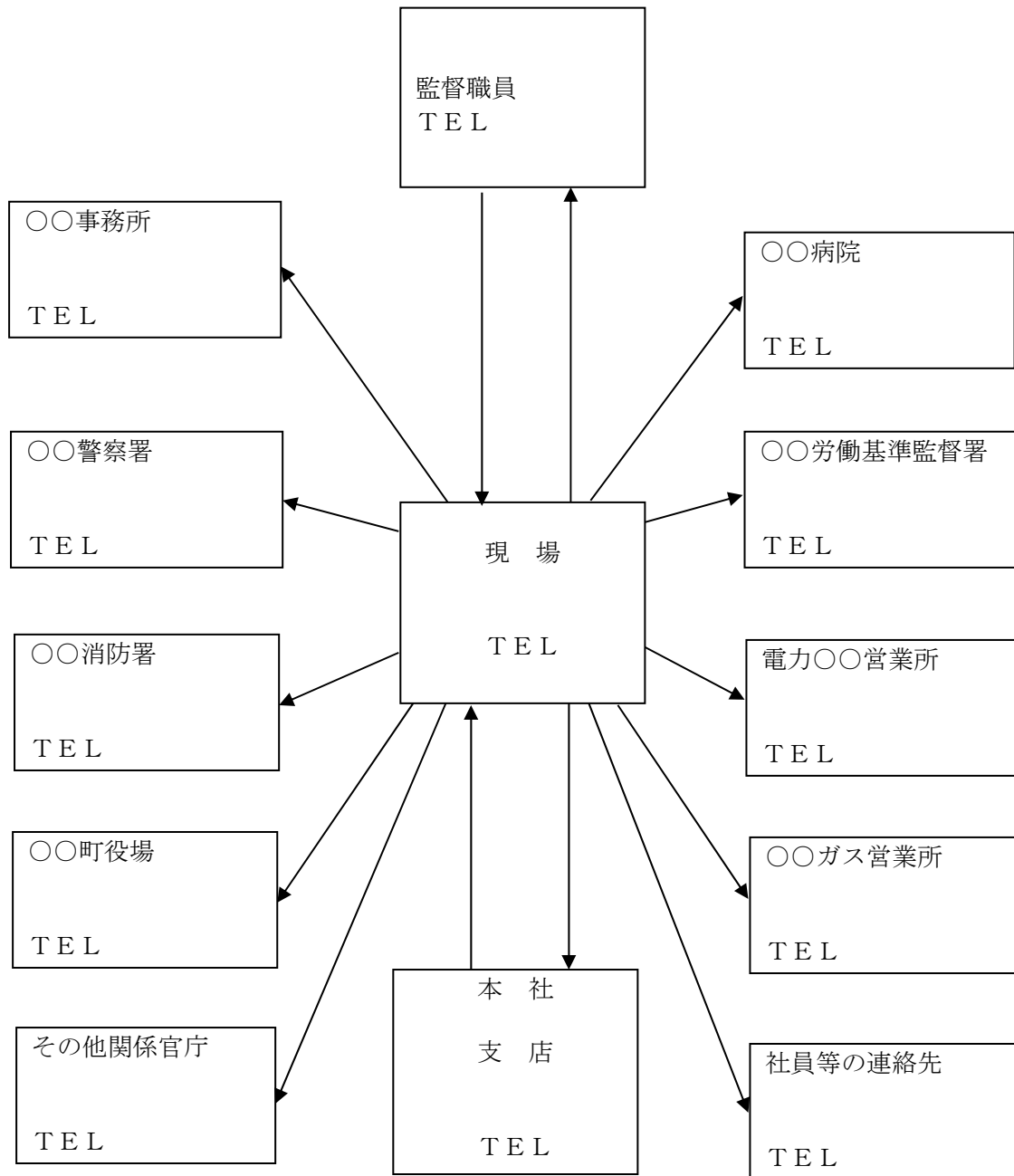
仮設備計画図

年 月 日

工事名											受注者				
備 考															

(注) 指定仮設で、構造及び形状、寸法等が明示されている場合は省略することができる。

緊急時の連絡体制



(注) 大雨、洪水、強風等の異常気象で災害が発生した場合又はその恐れがある場合、その他緊急時の場合は、現場責任者は、情報連絡、対策等を上記の連絡系統で速やかに措置できるようにする。

施 工 体 制 台 帳

年 月 日

会社名
事業所名

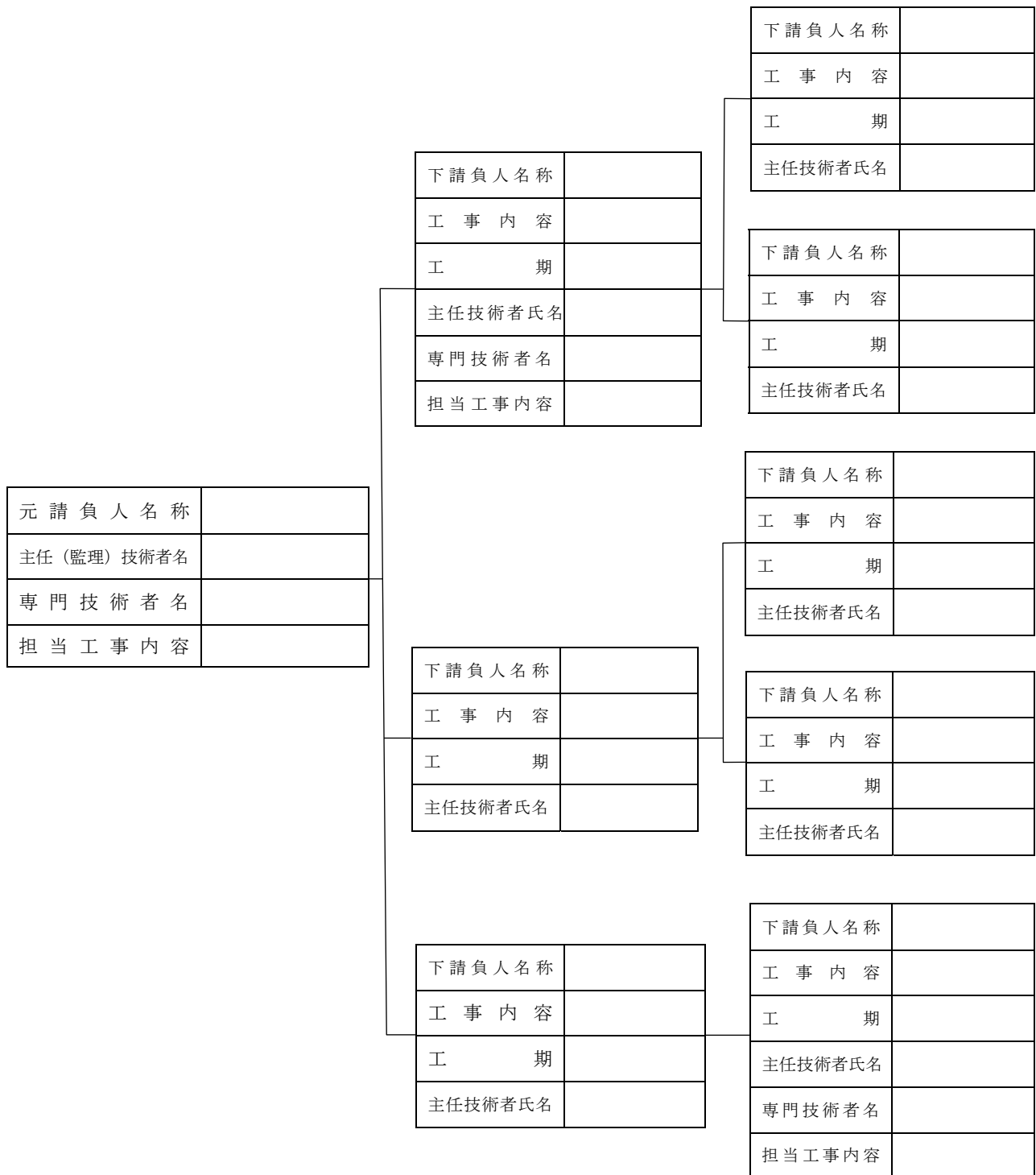
建設業の許可	許可業種	許可番号		許可(更新)年月日		
	工事業	大臣 特定 第 号	知事 一般	年 月 日		
	工事業	大臣 特定 第 号	知事 一般	年 月 日		
工事名称及び工事内容						
発注者及び住所	〒					
工期	自 年 月 日 至 年 月 日	契約日		年 月 日		
契約 営業所	区分	名称		住所		
	元請契約					
	下請契約					
健康保険等の加入状況	保険加入の有無 ¹	健康保険	厚生年金保険		雇用保険	
		加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外	加入 未加入 適用除外		
	事業所 整理記号 等	区分	営業所の名称 ²	健康保険 ³	厚生年金保険 ⁴	雇用保険 ⁵
		元請契約				
下請契約						
発注者の監督職員名			権限・意見 申出方法			
現場代理人			権限・意見 申出方法			
監理(主任)技術者名	専任 非専任			資格内容		
専門技術者名			専 門 技 術 者 名			
資格内容 担 当 工事内容			資格内容			
			担 当 工事内容			
一号特定技能外国人の状況(有無)	有 無	外国人建設就 労者の従事の 状況(有無)	有 無	外国人技能実 習生の従事状 況(有無)	有 無	

下請負人に関する事項

会社名				代表者名				
住所 電話番号	〒 (〇 - -)							
工事名称 及び 工事内容								
工期	自	年	月	日	契 約 日	年	月	日
建設業の 許 可	施工に必要な許可業種		許 可 番 号		許可 (更新) 年月日			
	工事業		大臣 特定 第 号 知事 一般		年 月 日			
	工事業		大臣 特定 第 号 知事 一般		年 月 日			
健康保険等 の加入状況	保険加入 の有無 ¹	健康保険		厚生年金保険		雇用保険		
		加入 未加入 適用除外		加入 未加入 適用除外		加入 未加入 適用除外		
	事業所 整理記号 等	区分	営業所の名称 ²	健康保険 ³	厚生年金保険 ⁴	雇用保険 ⁵		
		請負契約						
再下請契約								
現場代理人				安全衛生 推進者名				
権限・意見 申出方法				雇用管理 責任者名				
主任技術者	専任 非専任			専 門 技術者名				
資格内容				資格内容				
安全衛生 責任者名				担当工事 内 容				
一号特定技能 外国人の状況 (有無)	有 無	外国人建設就 労者の従事の 状況 (有無)		有 無	外国人技能実 習生の従事状 況 (有無)	有 無		

施 工 体 系 図

工事名称		工 期	自	年	月	日
			至	年	月	日
発注者		契約日		年	月	日



コンクリートポンプ施工計画書

工事名		工作物名		
圧送業者	名称	配車予定ポンプ		
	代表者名	メーカー		
	所在地	形式		
	ポンプ保有台数	最大圧送距離	水平 m	
	所属協会名		垂直 m	
配車予定ポンプの性能仕様		配管		
最大輸送量	m ³ /h	区分	径 実延長 水平換算距離	
標準輸送量	m ³ /h	水平部分	m m	
配送量コントロール	可・不可	垂直部分	m m	
配管途中の絞り管	必要・不要	曲り管	R= m 箇所 m	
輸送可能スランプ	cm ~ cm	〃	R= m 箇所 m	
異物混入防止装置	あり・なし	絞り管	箇所 m	
コンクリートかく拌装置	あり・なし	フレキシブルホース	m m	
逆転装置	あり・なし			
ポンプ・吐出口連絡装置	あり・なし	合計	m	
レディコンクリートミキスト	工事名	コンクリートの種類	普通	
	所在地	粗骨材最大寸法	mm	
	コンクリート輸送時間	最大	呼び強度	N/mm ²
		標準	スランプ	cm
	生コン車配車計画	m ³ 車 台	空気量	%
		m ³ 車 台	コンクリート温度の範囲	℃ ~ ℃
m ³ 車 台				
労務計画	生コン車誘導員	人	バイブレーター 人	
	ポンプオペレーター	人	人	
	筒先作業員			
付表	1. コンクリートポンプ配管図			

上記のとおり作成したので提出します。

年 月 日

監督職員

殿

施工管理担当者

施工管理担当者通知

工 事 名

年 月 日に契約した上記工事について、 工事施工管理基準に基づき施工管理担当者を下記のとおり定めたので通知します。

記

1. 管理担当者 現 住 所

氏 名

生 年 月 日

2. 学歴・資格 最終学校名

卒 業 年 次

資 格

免 許

3. 工事経歴

期 間	工 事 名	発 注 者

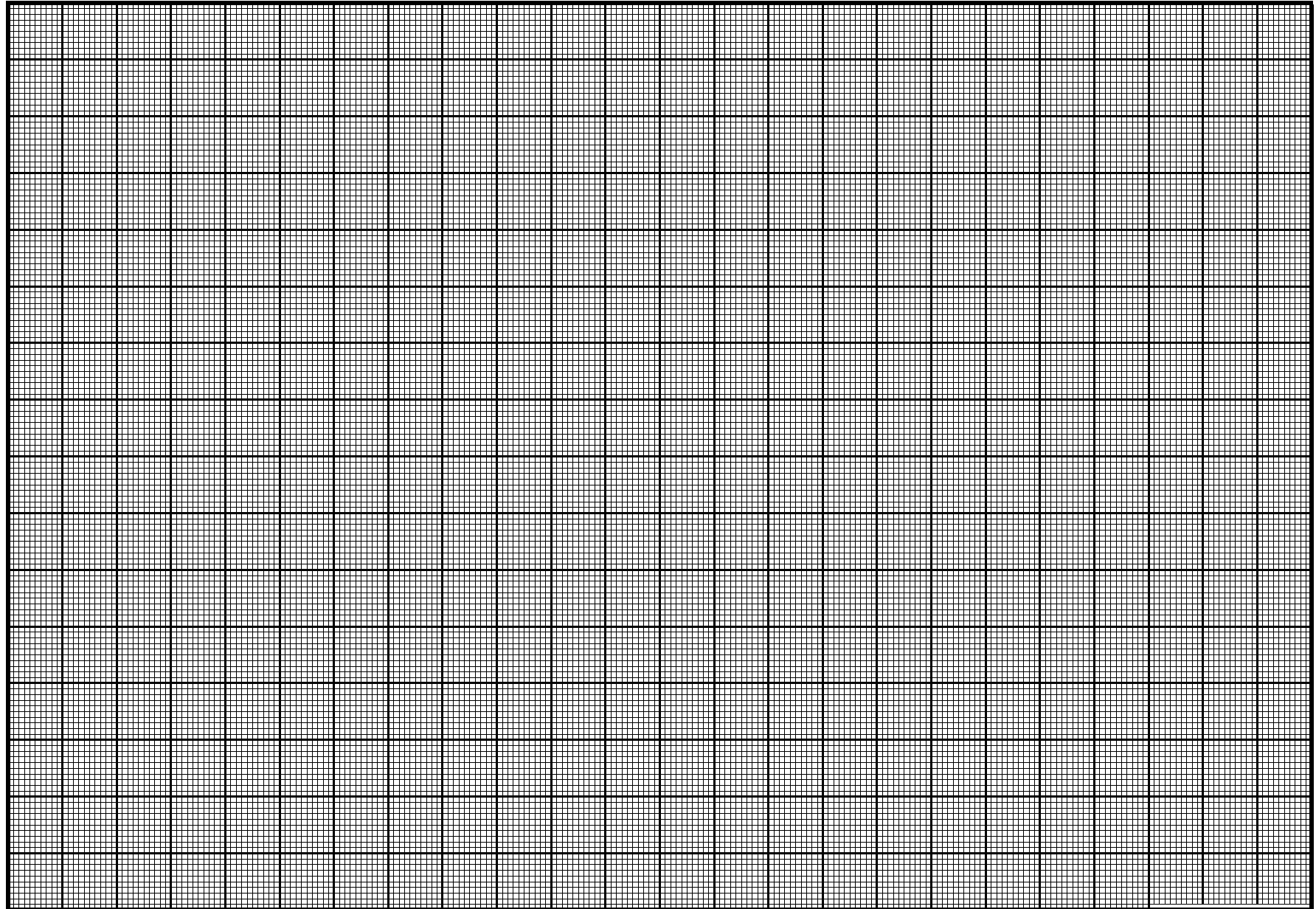
年 月 日

監督職員

殿

受注者

出来形図



出来形集計表

月分

工事名				確認 年月日	年 月 日	現場 代理人			
工種・種別	数 量	単位	出 来 高						備考
			前 月		本 月		計		
			数 量	進行率	数 量	進行率	数 量	進行率	
				%		%		%	
摘要									

コンクリートのスランプ・空気量試験表

規格限界	最大	スランプ	空気量
	最小	cm	%

工事名	主任技術者										粗骨材の最大寸法										mm		セメントの種類		混和剤		水セメント比		%											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
番号																																								
測定月日																																								
気温 (°C)																																								
ブロック番号																																								
ス ラ ン プ (cm)	午前 (x ₁)																																							
	午前 (x ₂)																																							
	$\frac{(x_1)+(x_2)}{2} = X_1$																																							
	午後 (x ₃)																																							
	午後 (x ₄)																																							
	$\frac{(x_3)+(x_4)}{2} = X_2$																																							
	$\frac{X_1+X_2}{2} = \bar{X}$																																							
	$ X_1 - X_2 = R$																																							
管理限界の計算	$\bar{X} = \div 5 =$	$\bar{X} = \div 10 =$																																						
	$\bar{R} = \div 5 =$	$\bar{R} = \div 10 =$																																						
	$\bar{X} \pm 1.88 \cdot \bar{R} = \pm$	$\bar{X} \pm 1.88 \cdot \bar{R} = \pm$																																						
	$3.27 \cdot \bar{R} =$	$3.27 \cdot \bar{R} =$																																						
記事																																								
空 気 量 (%)	午前 (x ₁)																																							
	午前 (x ₂)																																							
	$\frac{(x_1)+(x_2)}{2} = X_1$																																							
	午後 (x ₃)																																							
	午後 (x ₄)																																							
	$\frac{(x_3)+(x_4)}{2} = X_2$																																							
	$\frac{X_1+X_2}{2} = \bar{X}$																																							
	$ X_1 - X_2 = R$																																							
管理限界の計算	$\bar{X} = \div 5 =$	$\bar{X} = \div 10 =$																																						
	$\bar{R} = \div 5 =$	$\bar{R} = \div 10 =$																																						
	$\bar{X} \pm 1.88 \cdot \bar{R} = \pm$	$\bar{X} \pm 1.88 \cdot \bar{R} = \pm$																																						
	$3.27 \cdot \bar{R} =$	$3.27 \cdot \bar{R} =$																																						
記事																																								

コンクリートの圧縮強度試験表

{
規格値
N/mm²
}

工 事 名		主任技術者							粗骨材の最大寸法					mm					セメントの種類					混和剤					水セメント比					%							
番 号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
製 造 月 日		/ /																																							
試 験 月 日		/ /																																							
材 令 (日)																																									
養生温度 (°C)																																									
質 量 (kg)	a																																								
	b																																								
	c																																								
破 荷 壊 重 (N)	a																																								
	b																																								
	c																																								
圧 縮 強 度 (N/mm ²)	a																																								
	b																																								
	c																																								
強度平均	$\bar{X} = \frac{a+b+c}{3}$																																								
範 囲	$R_s = \bar{X}_1 - \bar{X}_2 $																																								
	$R_m = \text{供試体差}$																																								
管 理 界 限 の 計 算		$\bar{X} = \div 5 =$					$\bar{X} = \div 10 =$																																		
		$\bar{R}_s = \div 4 =$					$\bar{R}_s = \div 9 =$																																		
		$\bar{R}_m = \div 5 =$					$\bar{R}_m = \div 10 =$																																		
		$\bar{X} \pm 2.66 \cdot \bar{R}_s = \pm$					$\bar{X} \pm 2.66 \cdot \bar{R}_s = \pm$																																		
		$3.27 \cdot \bar{R}_s =$					$3.27 \cdot \bar{R}_s =$																																		
		$2.58 \cdot \bar{R}_m =$					$2.58 \cdot \bar{R}_m =$																																		
記 事																																									

\bar{X} -R (スランプ・空気量) 管理図

工事名	品質特性	主任 技術者	作成者
-----	------	-----------	-----

品質 特性	月 日																										
ス ラ ン プ	\bar{X}	(cm)																									
		R																									
	空 気 量	\bar{X}	(%)																								
			R																								
記 事																											

$\bar{X} - R_s - R_m$ (圧縮強度) 管理図

工事名		品質特性	圧縮強度	主任 技術者		作成者	
-----	--	------	------	-----------	--	-----	--

月 日																											
\bar{X}	N/mm ²																										
R_s	N/mm ²																										
	0																										
R_m	N/mm ²																										
	0																										
記 事																											
予備データ因子																											

ゆとりの検討表 { スランプ 空気量 圧縮強度 }

年 月 日

工 事 名	主任技術者	作成者
-------	-------	-----

区 分	規 格				測 定 値		ゆとりの 適 否	規格に 対する 合 否	変動係数 CV
	片 側 規格値 S	下 限 規格値 SL	上 限 規格値 SU	規格を 割る確 率 P	規 準 正 規 分 布 の 上 側 確 率 P の 点 K P	$\bar{S} - \bar{X}$ $\hat{\sigma}$			
スランプ		cm	cm						%
空気量		%	%						
圧縮強度	N/mm ²			0.05	1.64				

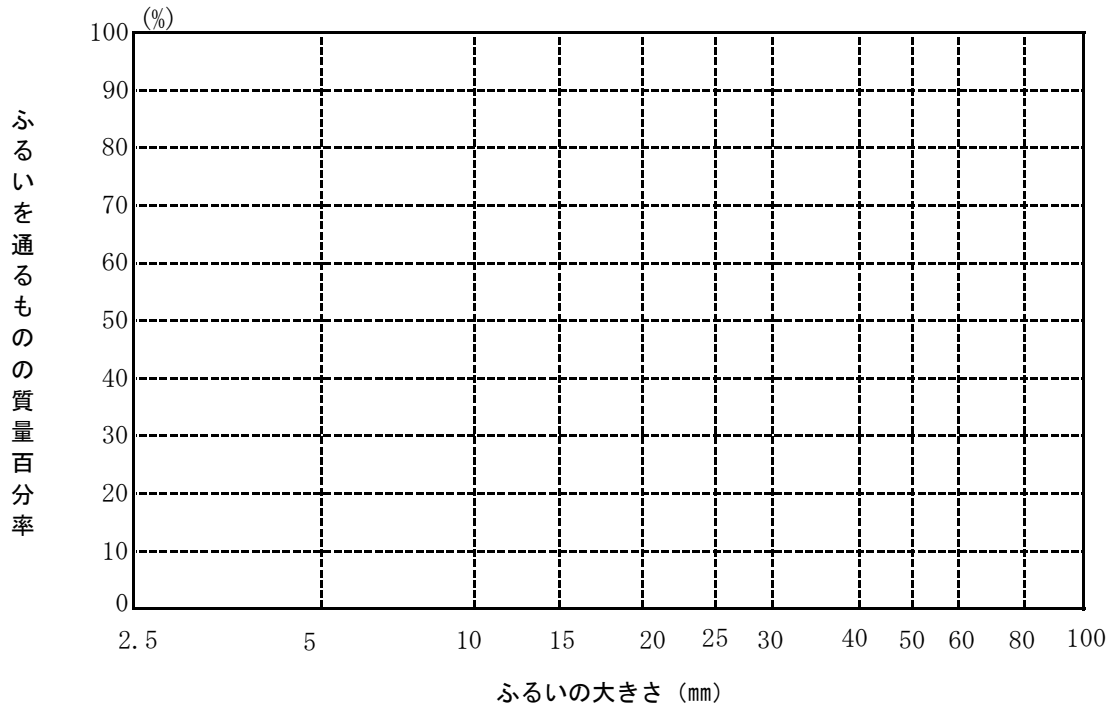
項 目	ス ラ ン プ	空 気 量	圧 縮 強 度
母標準偏差の 推定値 $\hat{\sigma}$	$\frac{\bar{R}}{d_2} = \frac{\quad}{1.128}$ =	$\frac{\bar{R}}{d_2} = \frac{\quad}{1.128}$ =	$\frac{\bar{R}}{d_2} = \frac{\quad}{1.693}$ =
コンクリート 標準示方書による 圧縮強度の許容 限界の検査			$\frac{\bar{S} - \bar{X}}{\hat{\sigma}}$ = > 1.64
規格値との照合	$\frac{SU - SL}{\hat{\sigma}}$ = > 6~8	$\frac{SU - SL}{\hat{\sigma}}$ = > 6~8	
変動係数 CV	$\frac{\hat{\sigma}}{\bar{X}} \times 100$ _____	$\frac{\hat{\sigma}}{\bar{X}} \times 100$ _____	$\frac{\hat{\sigma}}{\bar{X}} \times 100$ _____

粗骨材のふるい分け試験表 (JIS A 1102)

工事名					主任技術者				
試験日					産地				
ふるい分け試験	ふるいの大きさ (mm)	第 1 回				第 2 回			
		ふるいごとの残留量		総残留量 (%)	通過量 (%)	ふるいごとの残留量		総残留量 (%)	通過量 (%)
	(g)	累計	(g)			累計			
	60								
	50								
	40								
	30								
	25								
	20								
	15								
	10								
	5								
	受皿								
	計								
試料	最大寸法 (mm)	質量 (g)	最大寸法 (mm)	質量 (g)	最大寸法 (mm)	質量 (g)	最大寸法 (mm)	質量 (g)	

粒度曲線図

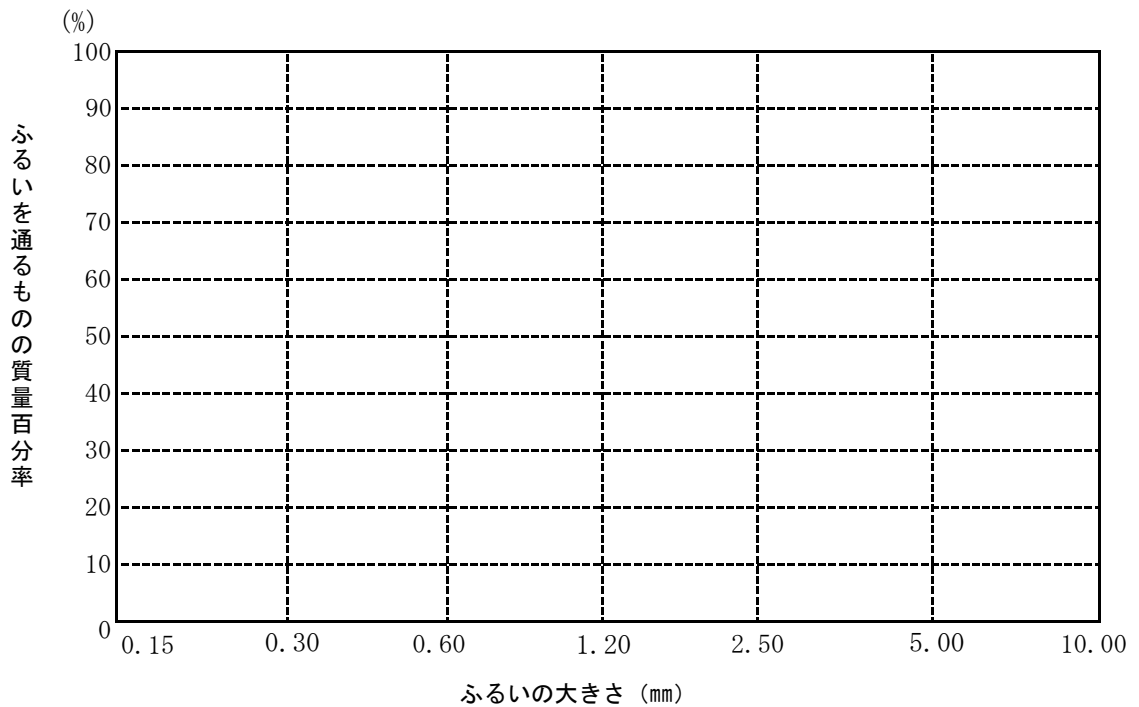
最大寸法 mm



粗骨材のふるい分け試験表 (JIS A 1102)

工事名					主任技術者				
試験日	年	月	日	産地	調査者				
ふるい分け試験	ふるいの大きさ(mm)	第 1 回				第 2 回			
		ふるいごとの残留量		総残留量 (%)	通過量 (%)	ふるいごとの残留量		総残留量 (%)	通過量 (%)
		(g)	累 計			(g)	累 計		
	5.0								
	2.5								
	1.2								
	0.6								
	0.3								
	0.15								
	受皿								
計									
粗粒率	_____ = 100				_____ = 100				
平均	_____ + _____ = 2								

粒度曲線図



骨材の微粒分量試験 (JIS A 1103)

試験名	骨材の微粒分量			所属 産地		試験者	
測定 年月日	室温 (°C)	湿度 (%)	洗う前の乾燥 質量 (g)	洗った後の乾 燥質量 (g)	差引損失質量 (g)	0.075mmふるい を通過する量の 百分率 (%)	摘 要
(注) 0.075mm ふるいを通過する量の百分率 = $\frac{\text{洗う前の乾燥質量} - \text{洗った後の乾燥質量}}{\text{洗う前の乾燥質量}} \times 100$							
摘 要	精度：2回行ない測定値と平均値との差 細骨材0.5% 粗骨材0.3%以下						

試験名	同上 (メスシリンダーによる場合)			所 属		試験者	
測定 年月日	室温 (°C)	湿度 (%)	試料の量 (cc)	泥の量 (cc)	泥の割合 (%)		
(注) 泥の割合 = $\frac{\text{泥の量}}{\text{試料の量}} \times 100$							
摘要	精度：2回行ない測定値と平均値との差 細骨材0.5% 粗骨材0.3%以下						

細骨材の表面水率試験表 (JIS A 1111、容積法)

試験名	細骨材の表面水率試験		所属		試験者	
月日時	試料の重量 W_s (g)	フラスコのマークまで水を入れた量 V_1 (cc)	フラスコに水と砂を入れた量 V_2 (cc)	$V_s = V_2 - V_1$	$V_d = W_s / \text{比重}$	表面水率 P (%) = $((V_s - V_d) / (W_s - V_s)) * 100$

精度：2回行い平均値との差 0.3%以下

細骨材の表面水率試験表（JIS A 1111、重量法）

試験名	細骨材の表面水率試験			所属				試験者	
月日時	試料 W_s (g)	容器と水の質量 W_c (g)	容器と水と試料 の質量 W (g)	$V_s = W_s + W_c - W$ (g)	$V_d = W_s / \text{比重}$	$V_s - V_d = a$	$\frac{W_s - V_s}{b}$	表面水率P(%) $= (a/b) \times 100$	

精度：2回行い平均値との差 0.3%以下

現場配合修正表						
工 事 名			産 地			
実 施 年月日			主任技術者			
1. 示方配合			水セメント比；	%	細骨材率；	%
単位セメント C (kg)	単 位 水 量 W (kg)	単位細骨材量 S (kg)	単位粗骨材量 G (kg)	混 和 剤 量 (kg)		
2. 現場における骨材の修正						
骨 材	5mmふるいを通過する量 (%)		5mmふるいに留まる量 (%)		備 考	
細 骨 材	a ;		b ;		ふるい分け 試験による	
粗 骨 材	c ;		d ;			
修正骨材量の算出						
<ul style="list-style-type: none"> • 採取すべき細骨材量を x、粗骨材量を y として、連立方程式により算出する。 • 全骨材量 ; $x + y = S + G$ (S; 単位細骨材量、G 単位粗骨材量) • 砂について ; $(a/100)x + (c/100)y = S$ • 連立方程式を解いて、表乾状態における修正骨材量 x、y を求める。 						
			修正細骨材量 x ;	kg		
			修正粗骨材量 y ;	kg		
3. 骨材の表面水の補正						
骨 材	表乾状態の 修正単位量	表面水率	表面水の算出		現場修正単位量	
細骨材	x ; kg	P _S ; %	$P_{SW} = x (P_S/100)$ $= (\quad /100) = \quad (kg)$		X = x + P _{SW} = + =	
粗骨材	y ; kg	P _G ; %	$P_{GW} = y (P_G/100)$ $= (\quad /100) = \quad (kg)$		Y = y + P _{GW} = + =	
水	w ; kg	—	$W_P = (P_{SW} + P_{GW})$ $= (\quad + \quad) = \quad (kg)$		WW = W - W _P = - =	
4. 現場配合						
単位セメント C (kg)	単 位 水 量 W(WW) (kg)	単位細骨材量 S(X) (kg)	単位粗骨材量 G(Y) (kg)	混 和 剤 量 (kg)		

コンクリート配合試し練り修正表

年 月 日

工事名					骨材の 産 地					
実 施 年月日	年 月 日				主 任 技術者				調 査 者	
セメントの種類	W	C	S	G	混和剤	スランプ	空気量	W/C	そ の 他	
(標準配合) 示方配合									混和剤名	
混合修正	%									
	修正量									
	修正後の 単 位 量									
バ ッ チ 量										
表面水修正	%									
	修正量									
試し練りの経過	標準配合									
	1									
	2									
	3									
	4									
	最も良い 配 合									
表面水修正	%									
	修正量									
	修正後の バ ッ チ 量									
骨材配合修正	%									
	修正量									
	修正後の バ ッ チ 量									
単 位 量									s/a=	
決定単位量										
備 考										